

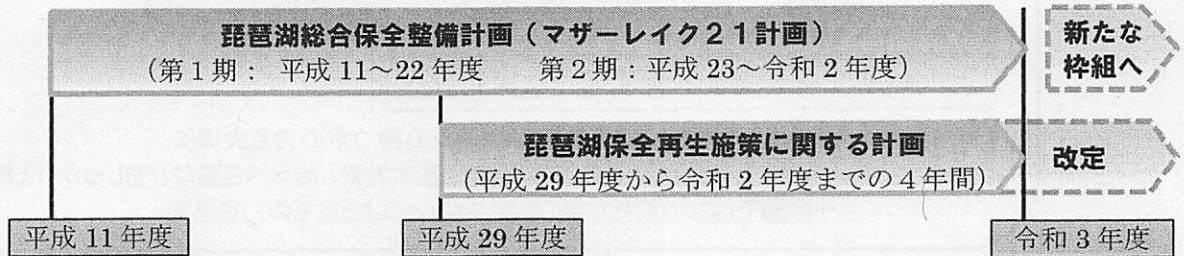
琵琶湖総合保全整備計画(マザーレイク 21 計画)の今後のあり方について(案)

1. 琵琶湖に関する計画の現状

平成 27 年に琵琶湖保全再生法ができたことを受けて、平成 29 年 3 月に琵琶湖保全再生計画を策定したことから、現在は、琵琶湖環境の保全に関する計画が併存する状況となっています。

琵琶湖保全再生計画については、必要な改定に向けて、今後、関係省庁等との間で協議を進めていきます。

マザーレイク 21 計画については、これまでの取組をふりかえるとともに、保全再生計画との重複を解消しつつ、これまでの取組をしっかりと継承できるような形で存続していけるよう、今後のあり方を検討していく必要があります。

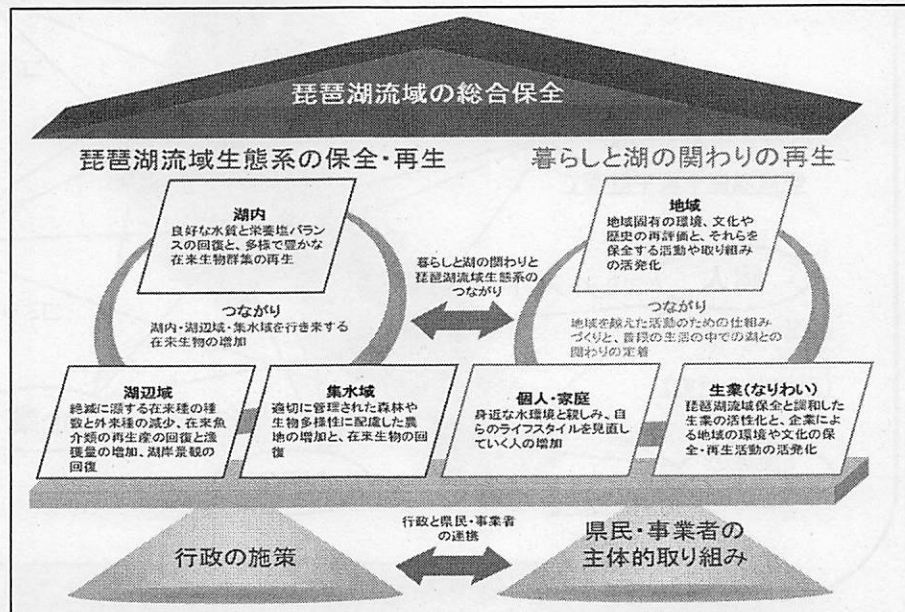


2. マザーレイク 21 計画によるこれまでの取組

マザーレイク 21 計画(第 2 期)では、「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の関わりの再生」を目標の柱に掲げ、「つながり」をキーワードに、行政施策の推進とあわせて、多様な主体の取組を後押ししてきました。

毎年開催してきたマザーレイクフォーラム「びわコミ会議」では、200 名程度の参加者が琵琶湖との関わりを約束するコミットメントを宣言するなど、一定の成果をあげてきたといえます。

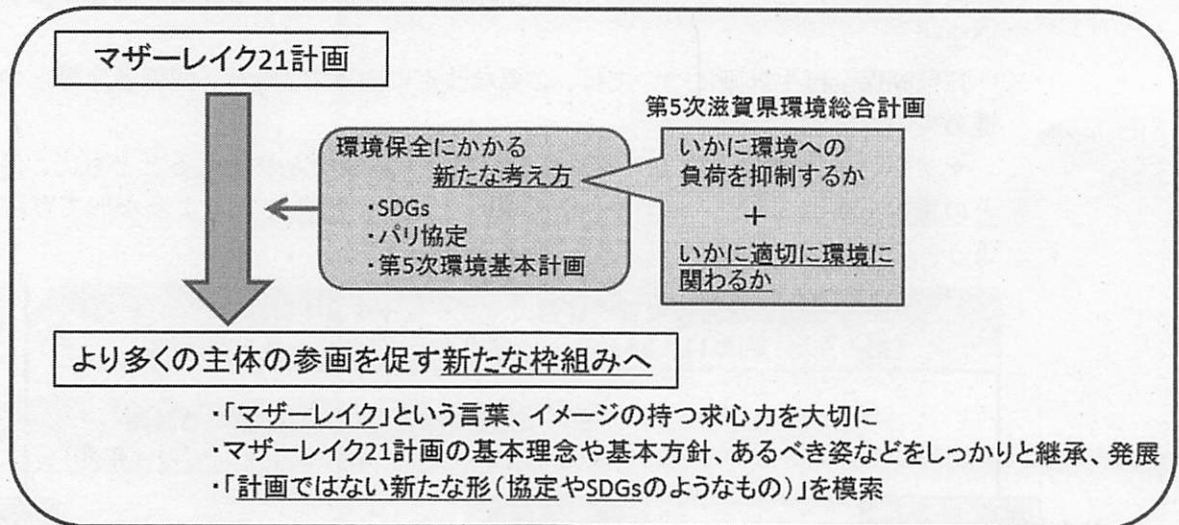
一方、参加者の広がりという点では、個人の参加者が限定されていることや、企業からの参加が少ないといった課題もあり、ますます複雑化、多様化する琵琶湖の課題を解決していくためには、取組を全県的なムーブメントとして拡大し、下流域も含め、さらにより多くの多様な方々に参画していただく必要があります。



マザーレイク 21 計画(第 2 期)の取組の方向性

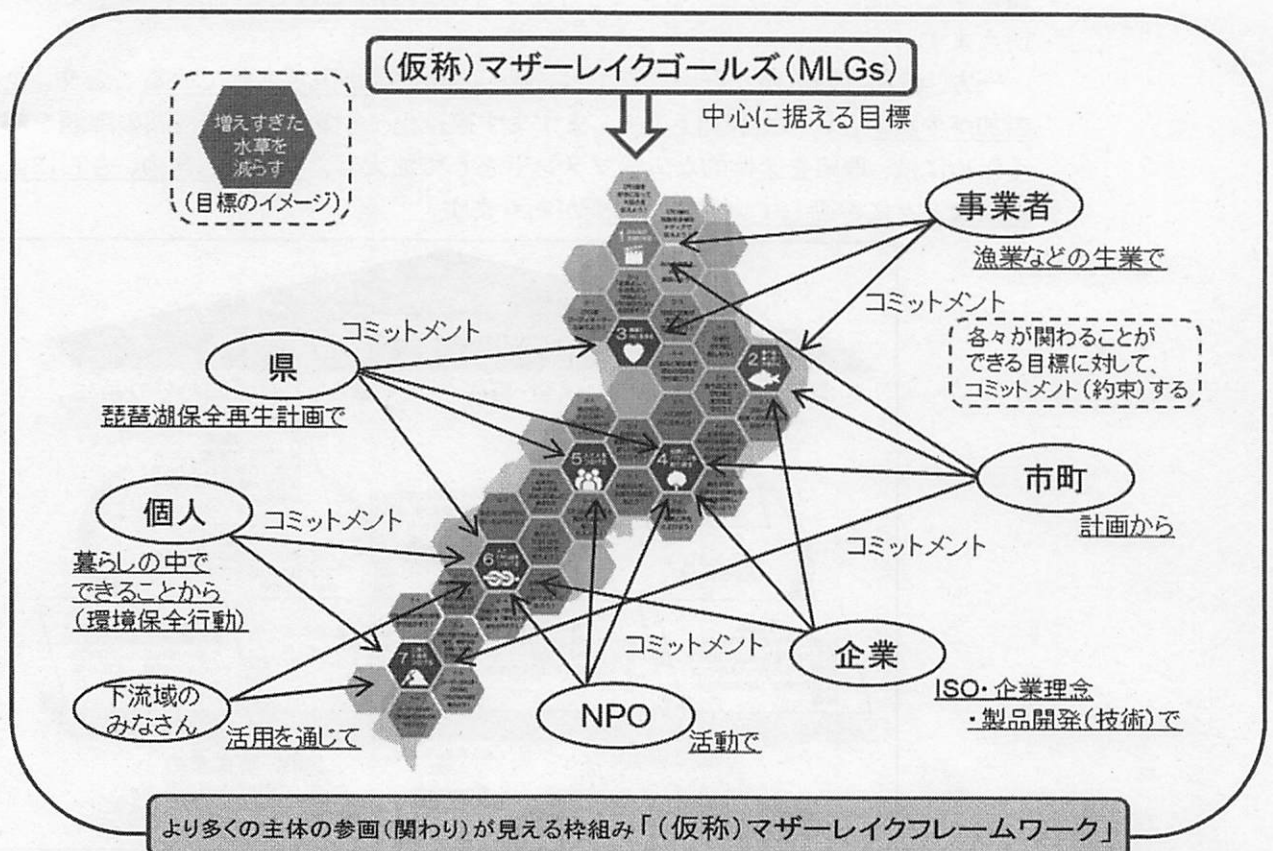
3. 今後のあり方の方向性

ますます複雑化・多様化する琵琶湖の課題を解決していくためには、県や市町による琵琶湖保全再生施策を推進すると同時に、「マザーレイク」という言葉の求心力やマザーレイク21計画の強みを生かしながら、環境に関する新たな考え方を取り入れ、より多くの主体が、積極的に琵琶湖の課題解決に関わることのできる、計画という形にとられない新たな「枠組み」を構築していくことが必要です。



4. 「(仮称) マザーレイクフレームワーク」とは

「(仮称) マザーレイクフレームワーク」は、多様な主体による琵琶湖への積極的な関わりを目に見える形で推進していくための新たな「枠組み」です。その「枠組み」の中心には、琵琶湖環境の保全に向けた「守る」と「活かす」の好循環を創出するための目標「(仮称) マザーレイクゴールズ (MLGs)」を掲げ、多様な主体はこの目標に対して「コミットメント (約束)」することで参画します。



◆ (仮称) マザーレイクゴールズ (MLGs) の構成

(仮称) マザーレイクフレームワークの中心に据える (仮称) マザーレイクゴールズは、琵琶湖環境の保全に向けた「守る」と「活かす」の好循環を創出するための、複数の目標を束ねたものです。

(目標の例)

「生物にとって棲みよい水に」

「増えすぎた水草を減らす」

「適正に保全・管理された森林を増やす」

⋮

◆ (仮称) マザーレイクゴールズ (MLGs) に向けた多様な主体の取組

多様な主体は、複数ある目標のうち、自らの活動と関わりのある目標にコミットメントします。例えば、水環境の保全に関する目標に対して、企業が企業理念や製品開発を通じて貢献することをコミットメントすることなどが考えられます。

このような枠組みにより、より多くの主体の関わりが見える化されることが期待できます。

(コミットメントの例)

企業 最新の排水処理技術を採用する → 「生物にとって棲みよい水に」

個人 家庭菜園に水草増肥を使う → 「増えすぎた水草を減らす」

NPO 里山の間伐活動に参加する → 「適正に保全・管理された森林を増やす」

⋮

◆ 組織体制と進行管理

現行のマザーレイクフォーラムの仕組みを継承しつつ、より多くの主体が参加できる場としての運営体制を整えるとともに、学識経験者や多様な主体による議論の場を通じて、進行管理を行います。

県は目標にコミットメントする一参画主体としてこの枠組みに参加し、施策の実施を通して目標の達成に貢献していくとともに、進行管理に必要な各種指標のとりまとめ等を行います。

5. 今後の予定

今後、マザーレイクフォーラムにおける議論やワークショップ、環境審議会や県議会での議論等、より多くの主体との間で慎重かつ丁寧に議論を重ね、令和2年度末に、多様な主体が参加する場において、(仮称)マザーレイクフレームワークを構築することを目指します。

(参考) びわ湖との約束(びわ湖版 SDGs) 2019年度版 (※)

※これまでのマザーレイクフォーラムびわコミ会議において参加者から提示された意見をもとに、琵琶湖保全の取組の方向性としてまとめたもの。

